

平成15年度予算に対する各党派の見解

元気な中野実現をめざして

自由民主党議員団

区財政を取り巻く厳しい状況が続く中で、中野区の将来を見通した政策が今ほど求められていると、きはありません。行財政改革を徹底するとともに、重要な課題にはきちんと取り組み、区民の期待に応える区政にすることが、区政に携わる者すべての責任であると考えます。

一般会計予算は、888億5100万円と、11年ぶりの実質増となりましたが、景気の低迷を受けて、一般財源は今回も減少しています。特別区税の収入見込みが今年度よりさらに落ち込み、利子割交付金も減少するなど、先行きは

依然として不透明なままです。行財政改革の手を緩めることなく、財政健全化の努力をいっそう強化することが不可欠です。

また、行政の役割と民間の役割を明確に振り分け、民間活力の活用をさらに進めていくことが大切です。

平成15年度予算は、全体として厳しい状況の中で、中野のまちの将来の課題に意欲的に取り組んでいることは、一定の評価をしますが、我々自由民主党議員団は、行財政健全化へのさらなる取り組みが必要と考えます。

「区民との協働」の推進を

市民自治フォーラム

区の財政は、区民税や都区財調交付金など歳入の微減のなか、職員数の削減や事業の委託化、民営化などにより歳出を削減し、均衡を保っていますが、将来に備えた基金の残高も非常に低いところにとどまるなど、危機的な状況は依然として変わっていません。

その中で2003年度(平成15年度)予算は、歳出削減に努める一方で、中野のまちの将来を見据えて財政の再建をし、新たな「区民との協働」と連帯と信頼に基づく地域社会の実現に向けた第一歩を示す中野区長による初の予算編成です。

経費削減努力の一方、江古田の森保健福祉施設用地購入費の計上などで、11年ぶりの前年比増額の一般会計予算となりました。

これまでのようなすべての分野における一律削減ではなく、厳しい財政状況の中でも投資的経費が捻出され、新たな時代に対応した事業を緒につけるための具体的な予算が重点的に計上されるなど、区政の目指す方向性が出されており評価します。予算執行にあたっては、徹底した情報開示と手応えのある市民参加によって、区民に分かりやすい区政の推進を期待します。

福利向上へ一層内部努力を

公明党議員団

平成15年度の一般会計予算は、総額888億5100万円、前年度と比べ、実質12億円余、11年ぶりにプラス予算となりました。

歳入では、特別区税が前年度比マイナス計上されています。これは、区の財政運営は決して予断を許さないことをあらわしています。従って財政再建は引き続き区政の最重要課題です。

歳出では、職員数の削減計画100名を超える112名の減員が予定されるなど、義務的経費の抑制が図られた予算になっています。こうした厳しい区財政にあっても、小・中学校の普通教室の冷房化、

校舎耐震補強工事、病後児保育、子育てサポートルームの開設、3カ月健診時の子育て心の相談、在宅介護支援センターの増設、障害者地域自立センター、介護サービス事業者の第三者評価の導入などが予算化されたことを評価します。

警察病院の平成19年度開院へ向けた努力を求めるとともに、江古田の森保健福祉施設の開設に向けて着実な取り組みを要請します。

少子・高齢化が進むなか、区民の新たな行政需要に応え得る区政の再構築が急がれます。更なる区民の福利向上を図るために、一層の内部努力が必要です。

明るい展望の開けた区政を

民主クラブ

平成15年度の中野区の予算は888億円で、11年ぶりに前年度を上回る予算を組むことができました。一般会計予算の総額が、一時期1000億円を超えていたことを思うと、依然として厳しい財政状況であることに変わりはありません。しかし、区が平成13年度から取り組んできた行財政5か年計画——5年間で職員500人削減を柱とする内部努力——の効果が、少しずつではありますが出てきたと言えると思います。行政機構のスリム化に対応して、議会も前回の4名削減に引き続き、今回も定数を2名削減し、議会のスリム化

を図っています。

依然として、区財政は厳しい状況にありますが、長い間の懸念であった江古田の森の保健福祉施設整備が、PFI手法で民間活力を最大限に活用することにより、平成18年度の完成を目指して、いよいよスタートできるようになっています。自然林が数多く残されている江古田の森の4ヘクタールの土地が、防災広場として区一般財源をあまり使わずに確保できたこともうれしいことです。

尚一層の内部努力に努め、財政健全化を図り、明るい展望の開けた区政を築いて欲しいと思います。

痛み押付けと再開発志向

日本共産党議員団

学校施設の改善、知的障害・情緒障害学級の増設が予算化されたこと、さらに児童虐待や病後児保育への対応、道路・公園など生活に密着した事業への配慮などは、議員団が区民とともに求めてきたものであり、評価できます。

一方、がん検診の有料化が導入されます。介護保険料や国保料の値上げに加えて、区民負担がいつそう増やされます。

「住基ネット」に関する進展は何もないのに、再接続を前提とした予算がつけられています。

「中野駅周辺まちづくり検討」予算が突然計上されました。中野

駅周辺再開発計画には、これまで4億6千万円の税金がつぎ込まれ、ほとんどが計画倒れになっています。その総括もいまま、再開発のための新たな調査を始めるのはあまりにも早計であり、認められません。

日本共産党議員団は、これらを正すための予算修正案を提出しましたが否決されました。

「サンブラザの売却」は国の失政を自治体に押し付け、勤労青少年に対する責任を放棄するものです。国が責任を果たせないならば区への無償譲渡など、あらゆる可能性を探ることを求めます。

中野区議会は、虚礼等の廃止を決議しています

贈らない
求めない
受け取らない

虚礼等廃止の主な事項

時候の挨拶状の送付
中元、歳暮等の贈答
慶事、弔事についての廃止事項
①祝儀、香典、供花の贈与 ②祝電、弔電等の発送
本人または配偶者が出席する場合は、会費相当額を限度とする。
病気等の見舞における金品等の贈与
新聞、雑誌、名簿、掲示板等への広告
各種行事、各種団体に対する寄付・カンパ、祝儀、祝電、金品等の贈与等
本人または配偶者が出席する場合は、会費相当額を限度とする。